令和７年度 第３回 くるめ支え合うプラン推進協議会 議事要旨

開催要領

１　日　時　令和８年２月５日（木）　１４時００分～　１５時００分

２　会　場　久留米市総合福祉センター　２階大会議室

３　出席者　委員１９名
江頭委員、重石委員、立石委員、藤木委員、中村委員、髙田委員、北岡委員、津野委員、藤野委員、村井委員、尾花委員、森山委員、濵﨑委員、川崎委員、藤田委員、船津委員、刈茅委員、江上委員、佐藤(寿)委員

４　欠席者　委員６名
佐藤（美）委員、縄崎委員、橋本委員、牛島委員、永野委員、岩﨑委員

５　傍聴者　なし

次第及び議事要旨

１　開会

会　長：第２期プランの最終案ができた。パブリック・コメントで多くの意見を得ている。実際に印刷されたプランが市民の手に渡った時に、わかりやすいものか、これからの５年間に向かって、久留米市の地域福祉に相応しいものかどうかなどの視点も踏まえて確認いただきたい。

２　報告事項

（１）令和７年度 第２回 協議会 議事要旨について【資料１】
※資料配布のみ

３　協議事項

（１）パブリック・コメントの結果について【資料２】
※１ページ「３意見の内訳」について資料修正（資料編４７ページも同様）
①区分「４施策体系」の件数内訳
「案を修正」　：(誤) ７件　➡　(正) ０件
「案のとおり」：(誤) ０件　➡　(正) ７件
②合計件数
「案を修正」：　(誤) １４件　➡　(正) ７件
「案のとおり」：(誤) ２４件　➡　(正) ３１件

（2）第２期くるめ支え合うプラン最終案について【資料３・４】

【主な質疑応答・意見等】

委　員： 資料編１８ページについて。被害者等への配慮が不十分なまま加害者支援だけが進んでいくと、社会的な理解も得られにくくなり、再犯防止そのものが安定的に実施できなくなる。そのため、コラムも掲載して丁寧に策定されたことは、被害者へのアプローチとしてありがたいと思う。真の更生というのは、本人が意識して正しい道を進むということだけではなく、被害者の心情をしっかり考えていかないといけないということを伝えていかなければならない。１７ページについて。保護司は男性がするものと思われている面があるため、インタビュー記事で女性保護司を取り上げていただけたのがよかった。性別を問わず、更生保護に必要な人材であるということが伝わると思う。

委　員：資料編５９ページの用語集について。何を基に拾い上げたものか。就労継続支援Ａ型・Ｂ型は記載があるのに、他のサービスについては記載がないので疑問に思った。

事務局：本編、資料編を通じて、一般的にわかりにくいと思われる用語を拾っている。資料編６ページに「就労継続Ａ型」の記載があり、用語説明を記載している。

委　員：「就労継続Ａ型・Ｂ型」については、種類が違うため、もう少し丁寧に記載した方がいいと思う。

事務局：表現については再考する。

委　員：パブリック・コメントの結果は、市民の方にどのように伝えていくのか。広報紙等で周知するのか。また、用語解説は福祉以外も含めて丁寧に説明しているのでいいと思った。

事務局：パブリック・コメントについては、ホームページにて公表予定である。

委　員：くるめ支え合うプランの全体的なものについても、広報紙等に随時公表していくものか。

事務局：プランの公表については、今後どのような方法とするか具体的に検討していく。少なくとも出前講座等で説明する機会などは設けていく想定である。

事務局：プランについては、久留米市社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」も兼ねている。地域福祉活動計画としては、校区ごとの「校区福祉活動計画」の策定支援を行っていくことにしている。プラン策定後は、地域担当コーディネーターが校区社会福祉協議会やコミュニティ組織等を通じて、説明や普及を図っていく。その上で、どのように校区の活動に活かしていくかをそれぞれの地域で検討いただけるように働きかけていく。

会　長：精査中となっている部分などが決定して、正式なプランとなるまでの

スケジュールはどうなるのか。

事務局：３月に市民意識調査の結果が公表されるため、それも含めて、プランも３月に策定予定としている。

副会長：素晴らしいプランができたと思う。一方で、関係者はよくわかっていると思うが、市民に対してどのように周知していくか。ダイジェスト版やわかりやすい版などを作る予定はあるか。

事務局：第１期プランは少しページ数が多かったため、今期ではコンパクトにしている。また、コラムを掲載するなどして、読みやすさを意識した。そのため、概要版を作成する予定はない。例えば、本編２２ページ、２３ページでは地域住民等ができることをピックアップしているため、そこを活用してワークショップをすることもできると考えている。いずれにしても、プランは作って終わりではなく、作ってからが始まりだと思っている。

副会長：「みんなでつくる」とあるように、市民一人ひとりに知ってもらい、協力してもらえるようにしていくことが大事だと思う。絵に描いた餅にならないように。また、プランを基に、「校区福祉活動計画」を全校区で策定していけるようにしたいと思っている。

会　長：第１期の時は「概要版」を作成したと思うが、今期は作成しない方針か。

事務局：内容をコンパクトにしているため、別途、概要版を作成する想定はない。第１期の際に、手をつなぐ育成会の協力を得て、「わかりやすい版」を作成した。「わかりやすい版」については相談しながら、検討したいと思っている。

会　長：より多くの人に浸透できるように、進めていただきたいと思う。

委　員：資料編６ページの「AU-formal 実行委員会」について。自分は知っていて読めるが、一般的には「アウフォーマル」と読むのが難しいと思われるため、用語集に入れた方がいいのではないか。

事務局：他の用語を含め、固有名詞は用語集では省略している。全体の調整の中で整理が必要かどうか検討する。

会　長：今後、市社協では各校区への周知、市では地域に出向いて説明を行うとのことで、補足ができると思う。委員の皆さまにおかれても、それぞれの団体の中で質問等があった際には答えられるようにしていただき、自分の身の周りから広げていただけるといいと思う。

４　その他

・委員の任期満了に伴う委員の推薦及び公募について案内

５　閉会